

グローバルコミュニケーション

[演習] 第1～6学年 通年 選択
【SGD, PBLを含む】
1単位

《担当者名》教授 / 足利 俊彦

教授 / 村井 毅 教授 / 小島 弘幸 教授 / 小林 健一 准教授 / 小林 大祐

准教授 / Shaun Hoggard (看護福祉学部)

【概要】

主に夏期や春期の大学休業期間中に語学研修や交換留学プログラムによる海外短期留学を行う。異文化を体験し、外国人と直接コミュニケーションをとることにより、効果的な英語修得が期待できる。また、現地滞在中に開催される種々の研修や行事に参加して、英語だけでなく特定の専門分野に関する学習も行う。

【学習目標】

外国人と英語によるコミュニケーションができる。

異文化を直接体験し、体験した内容を要約して発表できる。

異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に基づいた思考ができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーションと事前学習	- 海外短期留学の内容や具体的実施要領を説明できる。 - 受け入れ施設の概要を把握し、研修の目的と課題を説明できる。 【SGD/PBL】 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-2, (3)- , ,	担当者全員
2 { 9	現地での研修	- 現地での研修プログラムに参加し、体験したことを説明できる。 - 受け入れ施設とコミュニケーションをとり、適切な判断と行動ができる。 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-2, (3)- , ,	受け入れ施設担当者
10	報告書作成・発表会	- 発表を通じて研修内容を説明できる。 - 研修内容をまとめ報告書を作成できる。 【SGD/PBL】 《薬学準備教育ガイドライン》 (1)-2, (3)- , ,	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

評価方法は参加するプログラムにより異なる。

(1) 語学研修： 現地での小テスト及び最終テスト（50%）、報告書（50%）で評価する。

(2) 交換留学： 発表内容（50%）、報告書（50%）で評価する。

発表内容については講評として適宜フィードバックを行う。報告書については内容を確認し、必要に応じて個別にフィードバックを行う。

【教科書】

受け入れ施設の指示による。

【参考書】

受け入れ施設の指示による。

【備考】

語学研修（8月実施予定）、交換留学プログラム（3月派遣予定）の詳細な実施要領は確定次第周知する。

希望者多数の場合は、面接等による選考を行う。

語学研修や交換留学プログラムを1～6年次に複数回行っても単位の加算は行わない。

【学修の準備】

日常生活に支障のない程度の簡単な英会話を身につけておくこと。

研修先や受け入れ施設の概要を把握しておくこと。また各研修での指示に従い、必要な準備、予習をしておくこと（50分）。

現地での研修内容について確認、復習し、理解を深めること（50分）。

【薬学準備教育ガイドライン】

（1）人と文化

（3）薬学の基礎としての英語

【読む】【書く】【聞く・話す】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。